

事業群評価調査 (平成29年度実施)

基本戦略名	4 生きがいを持って活躍できる社会をつくる	事業群主管所属	教育庁生涯学習課
施策名	(1) いつまでも健康で活躍できる社会の実現	課(室)長名	原 洋
事業群名	⑦ 豊かな人生を支える県民の生涯学習環境の整備	事業群関係課(室)	
事業群名	⑧ 地域の元気づくりのための社会教育の充実・活性化		

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)						(取組項目)	
⑦価値観やライフスタイルの多様化が進む中で、それぞれのライフステージに応じた学習機会が得られ、その成果を社会生活や職業生活に活かすことのできる環境を整備します。 ⑧地域社会における人づくり・絆づくり・地域づくりを進めるため、社会教育の中核的な機能を有する公民館や図書館の活性化や地域を担う人材の育成を図ります。						i) 「ながさき県民大学」の充実など県民のニーズに対応した生涯学習環境の整備(事業群⑦) ii) 市町立図書館の支援など県立図書館の機能充実や新しい県立図書館の整備(事業群⑦) iii) 地域コミュニティを活性化させる社会教育主事等の人材育成(事業群⑧)	
指 標		最終目標 (H32)	目標 (H28)	実績 (H28)	達成率	(進捗状況の分析)	
事業群	⑦ながさき県民大学の講座受講者数	530,000人	526,000人	562,045人	106%	⑦県民一人ひとりが豊かな人生を送るために、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる環境づくりは大切である。県や市町、大学等で実施しているながさき県民大学の受講者数は、県民の高度化・多様化したニーズに対応した講座が増えていることもあり、平成28年度の受講者数は前年度と比較すると増加している。今後も受講者が意欲的に生涯学習に取り組むことができるよう環境整備を進めていく必要がある。(H27:535,196人、H28:562,045人) ⑧生涯学習環境の整備を進めるためには、各地域で活躍する社会教育関係者(市町社会教育主事、公民館職員、社会教育団体の加入者)の資質向上が不可欠であり、最新の社会情勢を踏まえた研修や、社会教育関係者への支援を行う本事業は必要不可欠である。また、高い専門性と県内広域における参加者の交流が必要な研修会等の実施は、市町や民間だけで行うことが困難である。加えて県と市町教育委員会や各社会教育関係団体等が連携し事業を行うことで、少ない人員・経費で県レベルの大会を開催することができ、費用や業務量に見合った活動結果が得られている。(参加者満足度:H27:99%、H28:93%)	
	⑧公民館職員等研修会及び県公民館大会、県社会教育研究大会参加者における満足度	90%以上を維持	90%以上	93.1%	103%		
関連指標 その他							

2. 28年度取組実績 (H29新規・補正は参考記載)

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					28年度事業の成果等	中核事業	
			H28実績	一般財源	人件費(参考)	事業対象	28年度事業の実施状況 (29年度新規・補正は事業内容)	指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率			
			H29計画	一般財源	人件費(参考)					H29目標	—	—			
取組項目ⅰ	ながさき県民大学事業	H20-	2,614	2,614	6,434	県内に居住又は勤務・通学する者	県及び市町、大学等で実施している生涯学習に関する事業を体系化し、県民に学習機会を効果的に提供するとともに、学習成果を評価すること等により、県民の学習意欲を高め、地域における生涯学習の一層の振興を図った。	活動指標	ながさき県民大学の講座数(講座)	2,500	2,666	106%	講座情報の提供については、講座情報冊子「講座のご案内」とホームページ「ながさきまなびネット」を中心に、効率的な広報活動を行った。主催講座については、受講者の満足度は高く、受講後の学習意欲の向上も見られるなど成果があがっている。	○	
			6,659	6,659	9,689			成果指標	ながさき県民大学(主催講座)における受講者の満足度(%)	90以上	97.5	108%			
	生涯学習課														
	生涯学習情報提供システム整備	H18-	6,418	0	8,846	県内に居住又は勤務・通学する者	県民が、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる環境を提供するためインターネットによる情報提供を行うシステムの整備を行った。旧システムをリニューアルし、10月からは新システムの導入を図った。	活動指標	新着情報の掲載件数(件)	55	96	174%	平成28年10月に「ながさきまなびネット」をリニューアルし、新たにスマートフォンでの情報提供や新着情報の更新など、活用しやすいシステムの構築を図った。そのためリニューアル後のアクセス件数は順調に伸びている。 ※ システムのリニューアルにより前回とアクセス数の積算方法が異なり、単純に比較をすることができないため。		
891			0	4,037	成果指標			H28:システムへのアクセス件数(件) ※	480,000	—	—				
生涯学習課															

取組項目 i	県立学校地域開放推進事業	H15-28 (H28 終了)	4,662	4,662	1,608	県内に居住又は勤務・通学する者	県立学校において、優れた人材や充実した施設を活用した生涯学習講座を開設することにより、地域における生涯学習の振興を図った。	活動指標	開設講座数(講座)	50	45	90%	県立学校が持つ教育的・文化的な機能や施設を有効に活用し、地域住民へより多くの学習機会の提供を行った。また、本事業を通して県立学校の良さを知ってもらい、開かれた学校づくりに寄与した。受講者の満足度も高い評価が得られた。	
	生涯学習課		—	—	—			成果指標	講座内容に対する満足度(%)	95以上	98.5	103%		
取組項目 ii	管理運営費	—	130,101	64,013	193,008	県内に居住又は勤務・通学する者、公共図書館等	公共図書館に対する協力貸出や協力レファレンス、職員研修の実施を通じて図書館運営に対する支援を図った。	活動指標	実務研修会実施回数(回)	4	4	100%	県内公共図書館等への蔵書貸出冊数は、九州で最も多く、県立図書館の図書を市町に巡回して貸し出す協力車等を活用して県内公共図書館間の相互貸借も含め効果的に実施している。	○
	生涯学習課		124,436	33,890	201,850			成果指標	県立図書館から市町立・学校図書館等への蔵書貸出冊数(冊)	55,600	54,529	98%		
	新県立図書館等整備事業費	H25-	149,832	20,474	56,294	県内に居住又は勤務・通学する者	大村市に建設する「県立・大村市立一体型図書館(仮称)」の設計作業を完了し、同施設の建設工事の契約を締結した。	活動指標	—	—	—	—	大村市や関係機関との協議を重ね、「県立・大村市立一体型図書館(仮称)」の設計作業を終えるとともに、同施設の建設工事の契約締結を行った。	○
	生涯学習課		2,147,603	200	56,518			成果指標	H28.一体型図書館の設計	設計完了	設計完了	100%		
									H29.一体型図書館の建設	—	—	—		
取組項目 iii	社会教育振興促進費	H16-	2,326	2,326	11,259	社会教育関係者	県公民館連絡協議会及び県社会教育主事等連絡協議会との連携を深め、研修会や研究大会を通じて県内の公民館活動や社会教育活動の活性化及び推進を図った。	活動指標	公民館職員等研修会及び県公民館大会、県社会教育研究大会参加者参加者数(人)	860	1,111	129%	社会教育の振興のためには、各地域で活躍する社会教育関係者の資質向上を図ることが不可欠であり、公民館大会、社会教育研究大会等を通して社会情勢や地域課題を踏まえたこれからの公民館活動及び社会教育の活動について研修を深めることができた。	○
	生涯学習課		2,313	2,313	12,918			成果指標	公民館職員等研修会及び県公民館大会、県社会教育研究大会参加者満足度(%)	90以上	93.1	103%		

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 「ながさき県民大学」の充実など県民のニーズに対応した生涯学習環境の整備
「ながさき県民大学」の主催講座は、20代から30代の受講者の割合が全体の6%となっているため、今後、より一層の広報活動を推進するとともに、若者をターゲットにした講座内容の充実や受講しやすい時間帯の設定など若者が活用しやすい講座となるよう取り組んでいく必要がある。また、県立学校地域開放講座は、各講座のアンケートで高い満足が得られており、ながさき県民大学主催講座として引き続き実施する。若者が参加しやすい条件整備や講座内容等について検討を進めるとともに、今後は、県民や行政、NPO法人・ボランティア団体、企業などが地域課題解決に取り組み、県民が生きる喜びや張り合いなどの生きがいを感じるとともに、積極的に地域社会に参画し、県民一人ひとりが共に支え合う地域となることを目指す。
ii) 市町立図書館の支援など県立図書館の機能充実や新しい県立図書館の整備
【市町立図書館の支援など県立図書館の機能充実】 市町立図書館等への蔵書貸出については、離島地区を含め支援の充実を図った。一方、市町立図書館職員等への研修については、経験年数に応じた研修等を開催し、引き続き職員の資質向上に取り組んでいる。社会環境が変化する中、生活や仕事など多様な専門化する県民のニーズ・課題に対し、的確にサポートができる職員の育成が必要であるため、県内全ての図書館が相互に連携し、県民一人ひとりのニーズに対応できるだけのスキルを持つことを目指す。 【新しい県立図書館の整備】 現在の県立長崎図書館は、昭和35年に建設され、老朽化が著しく、耐震性も満たしていない状況であるとともに、少子高齢化及びグローバル化並びに情報化が進むなかにおいて、図書館に求められる役割は近年多様化、専門化しており、現在の狭い施設では対応が困難である。 このような状況を踏まえ、平成25年に「長崎県の知の拠点として県民を支える図書館」を基本理念とする「新県立図書館整備基本方針」を策定し、大村市立図書館との合築による県立図書館(仮称)を大村市に、県立図書館郷土資料センター(仮称)を長崎市に建設することとなった。 新しい県立図書館の整備については、平成26年に同基本方針及び「新大村市立図書館整備基本方針」を踏まえて、期待される役割を果たしていくための基本的方向性、サービスや運営の考え方、建物の規模及び機能構成等を示した整備基本計画を策定し、平成28年度においては県立・大村市立一体型図書館(仮称)の建設に向けた設計作業を終え、同施設の建設に係る関係工事の契約締結を行い、スケジュールどおり作業を進めることができた。平成29年度は同施設の平成31年1月完成に向けて建設工事を進めていくとともに、新しい図書館における具体的なサービスや運営等について、大村市や関係機関との協議を重ねていく。
iii) 地域コミュニティを活性化する社会教育主事等の人材育成
県内市町においては、専門的なスキルを持つ職員数が年々減少しており、その配置についても十分とは言えない状況にあるため、地域・生活課題に対応した講座がなされていない。 県では公民館職員研修や社会教育研究大会、社会教育関係者スキルアップ連続講座等を通じて資質向上に努めており、引き続き、地域の課題解決に対応できる人材育成を推進していく。

4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しがなければ「―」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 i	ながさき県民大学事業費	若者をターゲットにした講座内容の充実(若者向けの主催講座の開設、まちゼミフォーラムの共催)や受講しやすい時間帯の設定、また、スマートフォンに対応した広報など、若者が活用しやすい「ながさき県民大学」を目指す。	②	若者向けの主催講座の開設やまちゼミフォーラムの共催により、県内全域に若者の学びの場を広げるとともに、若者が受講できる講座数を増やし、若者が参加しやすい「ながさき県民大学」に取り組む。	改善
	生涯学習情報提供システム整備	—	—	今後も、県民が、あらゆる機会・場所において学習することができる環境を提供するため、新着情報の更新を細めに行うなど、利用者にとって魅力ある情報を発信することで、利用者の拡大を図る。	現状維持
取組項目 ii	管理運営費	—	—	平成30年度においても、引き続き市町立図書館職員等への研修内容等を精査し、県立図書館の機能である市町立図書館への支援充実に努める。	現状維持
	新県立図書館等整備事業費	—	—	この事業は、現在の施設の老朽化等を踏まえ、新しい建物を建設するために実施しているものであり、今後も事業を継続していく必要がある。	現状維持
取組項目 iii	社会教育振興促進費	平成27年度から社会教育関係者スキルアップ連続講座等を通じて社会教育関係者の資質向上に努めているが、これまで1日日程で分散して実施していた研修を2日日程で集中的に実施することで離島や遠方からも参加しやすいようにするなど見直しを図った。	—	地域課題が多様化・専門化し、課題解決するためには、社会教育関係職員の果たす役割がますます重要になっている。 引き続き、今日的課題に対応するための研修の機会と内容の充実を図り、県内市町の社会教育関係者の指導力や実践力、コーディネート力の向上に努め、人づくり・絆づくり・地域づくりを推進していく。	現状維持